

個人競技で磨かれる

「チーム力」とは





個人競技で磨かれる

「チーム力」とは

水泳部

・創部11年目、部員数60名
・下山監督、馬場コーチ、奈良コーチの指導のもと、本学室内温水プールにて日々練習を行っている。

文章：Mayu Shimizu

今年で創部11年目を迎え本学の強化部の中でも全国で活躍する選手を多く輩出している水泳部。昨年度のインカレで表彰台に登った松井浩亮・佐藤綾をはじめ、チームとして更なる活躍が期待される。

また、水泳部の強みとして選手を支える学生スタッフの存在があり、チームを共に支えている。そこで今号では『個』と『チーム』の関係性や、水泳競技の特性を踏まえ、部の中心メンバーから取材を行った。

「チーム」が「個」を作る

水泳部には小・中・高校と学校の部活動には所属せず、クラブチームに所属していた選手も多い。堀江選手もそのうちの一人だ。「高校の時はクラブチームに所属していたので、チームとかあまり意識していなかった」確かに個人競技だからチームと個人は別で、チームが個人の記録に影響を与えるのか。しかし彼女はその後「大学の『水泳部』は意識が全然違う。周りの意識が高い分練習への取り組み方が変わり、周りに負けないよう自分ももっと頑張らなきゃと思えた」と続けた。自分に足りないものを補い、気づかせてくれる存在、それがチームであるという事だ。

整った環境とそれを支える指導者がいればある一定の成績は残す事が可能であろう。しかし、更に上のレベルを目指すとするれば本人の努力や経験のみでは対応するのが難しいのではないかと。そんな時、チームに所属することで新たな発想や発見を見出す事ができ、自分では経験し得なかった新たな場面に直面した時に個の力では解決できない事をチームで補い、個の力を高めることができる。その時初めて『個がチームを作る』から『チームが個を作る』に変容するのである。チームの存在が選手の競技意欲を向上させ、結果に結び付けているのではないだろうか。

理想を「コピー」しない

女子主将の羽石選手は就任当初、憧れの存在だった先輩キャプテンを思い描いていた。しかし、その先輩の様なキャプテンになりたいという想いが強すぎた為に、自分の良さや力が発揮できないでいたという。『当時はそう思っていた。でも今は、先輩達みたいなチームを作りたいという憧れよりも、自分達が今までやってきた中で1番のチーム・学年になりたいと思っている』この強い信念は主将である青木選手にも感じられた。※ロングの種目を専門にしているが、現在ロングは彼を含め3名しかおらず、※ショート

と※ミドルの練習が一緒なのに対して場所が違っても多い為、主将としての役目を果たせずにいるのではないかと感じていたという。

「歴代の主将はショートかミドルの中から選ばれていたけれど、ロングから初めて俺が主将に選ばれた。でも、練習で辛い時に声を掛けてあげられないから、

そういう面では歴代の主将と比べると劣っているのかもしれない」

しかし、後輩達の評価は違っていた。「陽佑さんは面白い人で場を盛り上げるのが上手いです。でも、練習中はガラッと人が変わってしまったみたいに真剣な表情をしていますね。そのメリハリが凄いなと思います。確かに練習場所が違う事も多いですけど、その分下級生の僕たちも練習中に声掛けをして盛り上げないとって思います」この事を青木選手自身に伝えると、「1つ上の主将は人望が厚くて慕っている人が多かったけど俺に関しては全然ないと思うけどな(笑) それでも俺は俺なりの引つ張り方はあるし自分自身の行動で引つ張っていきたい」として自身の主将の理想像について尋ねると「最初はあの先輩凄かったなとか思っていたけど、俺は同期のみんなと支え合っていくスタイルだから自分達のやり方で部を盛り上げたい」自分達の理想は何なのか。それは決して誰かのコピーではなく、自身の強い信念に基づいた『1番のチームになりたい』という両主将の熱い想いだった。

「支える」は「共に戦う」って

水泳部には選手を支える為のサポート体制が非常に優れており、『マネージャー』『サポーター』と呼ばれる学生スタッフが存在する。マネージャーは常に選手と同様の行動をとり、部を運営する上でのマネジメントを行う。サポーターは医療系の本学の特徴を生かし、健康スポーツ学科以外の学生が水泳部をサポートできるようにする為に作った制度で、メンバーは他学科が中心である。その為、選手やマネージャーのサポートを行い、原則週2日以上は練習に参加し、大会には必ず参加するという条件がある。

そんなサポートスタッフのトップに立つチーフマネージャーの林さんは、最初は選手として入部したが、ある時期から競技を続けることに対し違和感や不安を覚えたという。「選手として入部したけど、正直水泳に対しての想いよりは、大学の部活動を通じて社会に出る時に必要な事を学べたらなって想いの方があった。でも、大学の水泳は練習も辛いし厳しいから中途半端な気持ちじゃ競技を続けられなくて、部を辞めようかとも考えた」そんな彼女は2年の冬に



ある決断をしたのである。競技を辞め、マネージャーに転向したのだ。そこには同じ水泳部の同期の存在があった。「辞めようか迷った時に同期の存在があったからそれが大きかった。辞めるんじゃなくて同期のみんなを支えてあげたいなって思った」そして水泳部の練習を見ると、選手とサポートスタッフは対等な関係であるということが分かる、そんな場面が練習の取材中に見られたのだ。練習の中でも1番辛いメニューが始まろうとしたその時、選手とサポートスタッフが握手を交わし始めた。それも何人もの人と。隣にいるレーンの選手同士も握手を交わす。そして握手を交わしながら選手がサポートスタッフに「宜しくお願います！」と声を掛け、それを今度はサポートスタッフが「宜しくお願います！」と同じ言葉を選手に掛ける。これから辛い練習を始めるという場面で握手を交わしながら元気な声がプールサイドに響き渡り、部員全員に笑顔が見られる。部員の心が1つになった瞬間だった。この姿こそが選手、そして選手をサポートするスタッフの理想の形の様には私が見えたのである。

大学で部活動が続ける意義とは

大学は、「勉強をする為にある場所だ」という人もいるだろう。確かにその意見は間違っていない。実際、自分の一生を決める大切な時期に全てを部活動に費やすことは、多くの犠牲を払う。しかし、自分を高め、成長していく水泳部の彼らを見ると、部活動の教育的価値を感じる。

主将の青木選手は「自分の可能性にかけてどこまでやれるか試してみたかった」と熱い想いを語ってくれた。水泳を続ける事に對し何かの見返りを得る事よりも、自分を信じて可能性に賭けていく。彼のように、自分を制して高めることが出来なければ、自分の想い通りに事は進まないし、夢を実現させることは不可能である。これこそが部活動の本来あるべき姿ではないだろうか。
4年間を部活動に捧げた時間は、彼らのかけがえのない財産として一生残るはずだ。



※ショート：50m・100m種目
※ミドル：1000・4000種目
※ロング：4000・15000種目
※オープンウォーター・スイミング
(海や川、湖などの自然の水の中で行われる長距離の水泳競技)

WHAT IS SPORT LIFE ?

新潟医療福祉大学の学生に求めるスポーツ観とは

文章 : Ayato Kuzumi

「QOLの向上」。これは優れたQOLサポーター育成を基本理念としている新潟医療福祉大学を語る上で欠かすことの出来ない要素である。本誌の存在意義も、スポーツを身近なものとし、学生生活の中で気軽にスポーツを楽しむことで学生生活の質の向上を目指すという観点から来ている。では、大学の基本理念と本誌の存在意義を掛け合わせた、「スポーツを通じたQOLの向上」とは果たしてどんなものだろうか。その答えを探るべく、今回は国際交流や強化スポーツを担当している渡辺敏彦副学長と学生部長を務めている西原康行先生にそれぞれ、お話を伺った。

スポーツは人々に希望を与える

まず、最初に伺ったのは渡辺先生のスポーツ観。「スポーツには体力の向上やストレスの発散、生活習慣病の予防などの元々持っている様々な役割があると思います。」と前置きした上でこう語った。「スポーツは、プレーしている人、観ている人を熱狂させたり、夢を持つ事や喜びを与える素晴らしい一面を持っています。スポーツとは不思議なもので、子供から高齢者まで人間にとってはなくてはならない存在ですし、人間の行っている活動の中でも、とても魅力がある部分だと思います。昨日勝利したアルビレックス新潟もそうですね。(取材日3/23の前日、アルビレックス新潟はホームで柏レイソルに3-2で逆転勝利を収めた)そういうのはやっぱり新潟人にとっては大変喜びがあります。ワールドカップやオリンピックでも色々な種目がありますが、日本人選手の一挙手一投足が注目されているわけですね。」

「スポーツ・健康」「スポーツ・実践」の重要性

スポーツは人々を魅了し希望を与えてくれる素晴らしいものであると渡辺先生は強調していた。本学では、スポーツに触れる機会として部活動以外に、全学科を対象にした「スポーツ・健康」と「スポーツ・実践」という科目が存在する。ではこの2つはどのような目的でカリキュラムに含まれているのか。「まずは資格取得などの学業が優先されるべきだとは思いますが」と前置きをした上で「この大学の学生には優れたQOLサポーターの育成のためにスポーツの重要性を意識してもらいたいという事と、自己の体力を把握し、健康の維持増進に励んでもらいたいという事で全学科に運動を行う科目があります。」

新潟医療福祉大学の優れたQOLサポーターになるための5 STEPS (Science: 専門知識と技術、Team work: チームワークとリーダーシップ、Empowerment: 対象者のやる気を起こす、Problem-solving: いかなる問題も責任を持って解決する、Self-realization: 自己の可能性を実現する)を実現するために、スポーツと積極的に関わり、重要



限られた時間の中であらゆることにチャレンジを 渡辺 副学長

国際交流・強化スポーツ担当 副学長 教授
渡辺 敏彦
Toshihiko Watanabe

性を再確認することによって、QOLサポーター自身のQOL向上を目指す目的で取り組まれている。

学生にとって社会人に無いものとは

スポーツと本学の関わりについて渡辺先生に深くお聞きすることが出来た。では、最後に本題であるスポーツを通じた充実した学生生活とはどんなものなのだろうか。「社会人と学生の最も大きな違いは『時間』だと思います。学生は忙しいけれども、時間は持とうと思えば持てる余裕がある時期だと思いますので、あらゆる事にチャレンジして体験をしてほしいです。最終的には、明確な目標に向かって徹底的に努力をして達

成する事を望みたいと思います。4年間はあっという間に過ぎていきますから。」

「暇な時間」それは人生を充実させるために、人間が人間であるために必要不可欠な時間である。スポーツは部活動のように自己実現に向けて勝利を目指し、成長を図るという側面もある一方で、交流や余暇を楽しむ側面もある。サークルで交流をしてスポーツを楽しんだり、趣味で山登りをするのも良いだろうし、同じ大学の仲間が強化部で頑張っている姿を応援するのも良いだろう。これは本誌が目指すべき姿でもある。大学4年間という限られた時間の中で、スポーツを通して自身の生活の質の向上を図ってみてはどうだろうか。

実学と教養を確かなものに 西原 学生部長

健康科学部 健康スポーツ学科 教授
西原 康行
Yasuyuki Nishihara



大学で身に付けておくべきこととは

「特にこの大学は資格を取るといのが魅力的な大学なのでそれに向けて勉強することはとても大切な事です。それを根底に置いた上で、大学と専門学校との違いは何なのか。これは内田樹さんもよく言うけど『実学と教養』の違いで、実学とは国家資格などの社会に出て直接役に立つ目に見えるもので、教養というのは社会の中できちんと状況判断が出来るとか、質の高い生活を送れるかといった目に見えないものです。教養は本を読んだり、旅に出るといった経験で培われるものなので、ぜひ身に付けて欲しいですね。」

スポーツはQOL向上に必要不可欠

「開学当初から英語と情報とスポーツの3つは教養としてしっかり身に付けさせようというのが本学の哲学です。英語と情報は実学に近いけど、スポーツはQOLの向上のために絶対必要だと。それが今も脈々と生きていると思う。学科を問わず、本学の学生たちにはスポーツをすることで自分たちの生活の質が高まるという意識がなんとなく浸透しているのではないかな。」

仲間意識を大切に

西原先生は、開学当初と今を比べて、「現在は専門性を高める個の活動に集中しすぎて、仲間意識が薄れて来ている。昔は同期と横の繋がりがしっかりあって、助け合う仲間意識があった。そういう意味では趣味や余暇などの時間をキャンプや宿泊を伴う活動などで仲間と共有する必要があると感じている」と、おっしゃっていた。

「本学は発展途上であり、学生の数も年々増加している傾向にある。その過程で実学に走り過ぎてしまい、個の活動が強まってしまっている。そんな今だからこそ求められているのは原点回帰、そして横の繋がりにある。友達とのスポーツやキャンプ等の宿泊を伴うレジャー・レクリエーションは、同じ時間を共有する事によって仲間意識を作り出すことができる。言い換えれば、積極的なコミュニケーション活動である。教養としてのスポーツ活動を充実させる事こそ、開学当初のような横の繋がりを生み、更にはQOL向上へと繋がって、限られた学生生活を充実させる手立てになるのではないだろうか。」

ボランティア精神を学ぶことは？

Voluntary

硬式野球部

「楽しむこと」から始める

「Voluntary」とは「自発的であるさま、自由意思から出た」という意味である。本学の硬式野球部に所属する学生は、様々な意思を持ち大学でも部活に取り組んでいるのだろう。自分の将来の夢を追いかけてながらも部活に取り組む彼らには、いったいどのようなVoluntary精神があるのだろうか。

2月21日土曜日、小さな白球に夢中になる野球少年がハードオフ・エコスタジアムに集まり、自分たちよりも高い水準でプレーする選手達から指導を受けていた。この日、新潟県中体連・軟式野球専門部は県内全域80校の中学校・2年生、300名を対象にした講習会を開催していた。ここでは、本学の硬式野球部監督である佐藤和也監督が講師を務め、野球部の選手12名が中学生に対して技術指導を行っていた。講習会は午前と午後の2部に分かれ、バッテリー・守備・メンタルの3つについて講習が行われていた。

中学生に指導するために何に重きを置いたのか、佐藤監督と理学療法学科3年の堀口晃平選手にお話を伺った。「技術指導はもちろんだが、それよりも野球を楽しむことを重要としていた」2人は話し合わせたかのように同じような内容を口にした。これは佐藤監督の教えが選手たちに行き届いていると同時に、堀口さんをはじめとする選手たちが「楽しむことの大切さ」についてしっかり理解していることが感じられた。

「楽しむこと」から始める

楽しむということは簡単なようで難しい。ことスポーツに関して言えば、勝敗にこだわったり、日々の練習で指導者から怒られたりするあまり、スポーツに対してプラスの気持ちでいることが難しい。マイナスの気持ちで日々の練習に取り組むれば、練習に対して「やらされている」と考えがちである。ただ練習をこなしているだけでは、練習効率も悪くなり、自分の能力の向上にも繋がらない。

では、楽しみながら取り組むことで何が変わるのだろうか。楽しむということに対して、佐藤監督は「楽しいと思えば、楽しいからもっとやる。やるからこそ上手くなる。上手くなるからこそ結果が出る。結果が出るから楽しい。このようなサイクルがある。そして、このサイクルは楽しむことからしか入れない。楽しいからこそ積極的に自ら動いていく」と語った。

野球に関して言えば、ヒットを打つ、ゴロを上手くさばくといったことを楽しいと思えば、それを再現するために何度も練習する。練習するからこそ技術が向上し、結果として表れる。そして、結果として表れることでさらに楽しさ



「楽しいからこそ積極的に自ら動いていく」

硬式野球部 中学生の技術指導で 地域貢献

文章：Takuya Harada

硬式野球部

・創部3年目、部員数90名
佐藤和也監督、大矢コーチの指導のもと
本学硬式野球グラウンド・屋内野球練習
場にて日々練習を行っている。

が増す。このようなプラスのサイクルが出来上がる。このサイクルはスポーツだけでなく、勉強や趣味など、社会へ出てからの仕事についても同じことが言えるだろう。

険しい道を選ぶ理由

部活に取り組んでいるのは健康スポーツ学科の学生だけではない。理学療法学科に在籍する堀口選手のように、健康スポーツ学科以外の学科に在籍しながら部活動に取り組む学生は少なくない。国家試験のための勉強や、実習などで忙しい日々を送る中で、部活に取り組むといった険しい道を選んだのはなぜだろうか。

「部活があるから勉強ができないみたいだと思われがちですが、僕の場合は部活があるからこそ勉強に取り組めます。勉強にストレスを感じたりしても、野球をすることでいい気晴らしができるし、早く練習に取り組みたいから、テストで再試にならないように集中して勉強ができています。自分にとっては、部活があるからこそメリハリのある生活が送れていると感じています」

このような考えは、部活に限ったことではない。人によってはそれがサークルであったりボランティアであったりと、学生には選択肢が数多く存在する。その選択肢の中で険しい道を選ぶからこそ、自分の生活にメリハリがでたり、生活を充実させるのだろう。そして、ここにも「楽しむことのサイクル」がある。これがあるからこそ、険しくてもなお、その道を進むことができるのだろう。

原点回帰

今回、佐藤監督と堀口選手の取材から、楽しむことの大切さを考えさせられたと同時に、硬式野球部は結果と同等にそのプロセスを大切にしているのだろうと感じた。例えば、学生生活では社会に出る前に大小さまざまな選択を迫られることになる。そうした中で、結果と同等以上に「なぜこの道を選んだのか」というプロセスを大切に、なによりもそのプロセス自体を楽しんでもらいたい。その道を進む中で、壁にぶつかれることもあるだろう。その時は自分の原点に立ち返ることが必要だ。そこには、険しくてもその道を進むことができる「楽しさ」があるだろう。目の前の結果を大切にしながらも、自分の原点を忘れないでほしい。

「自分がやりたいからやる。これを選んだからこそ日々の生活に楽しさが生まれる」このような考え方もVoluntary精神の1つの形なのではないだろうか。



佐藤和也 監督
健康スポーツ学科 教授
新潟明訓高校 野球部監督 (1984～2012)
甲子園出場夏7回 (ベスト8 1回)、春1回



堀口晃平 選手
捕手：理学療法学科3年
千葉専修大学松戸高等学校出身
(春季千葉県大会優勝)

実は頭脳派、 ボルダリングにトライ！



おすすめスポット↓
東総合スポーツセンター（新潟市東区）
最近話題になっているクライミングは「どうやってゴールするか」という課題の達成感が魅力のスポーツです。中でもボルダリングは大掛かりな用具も必要としないため、少し運動不足を感じている方におすすめです！



山登りで自分の体力に挑戦！

おすすめスポット↓
角田山・弥彦山（新潟県西蒲区）
この2つの山は初心者でも登れる山とされています。角田山は登山道が整備されていて登山コースも豊富なので幅広い年齢層の人が登っています。登り終わった後には温泉でリフレッシュもいいでしょう。登山をする際はマナーを守り、自己責任と自然愛護を心掛けて登りましょう。

五感で楽しむフィッシング！



新潟県は日本海に面しており、魚釣りには最適な立地です。用具などは必要ですが、自分好みの釣れるポイントを見つけ、波の音や海のおいを楽しみながら休日をお過ごししてみたいはいかがでしょうか！



お花見を楽しもう！

おすすめスポット↓
やすらぎ提（新潟市中央区）
やすらぎ提は信濃川両沿いに存在しています。新潟駅、もしくは越後線白山駅から歩いて行くことが出来ます。春には桜やチューリップ、夏には新潟花火を眺める絶景のスポットになり、ランニングやサイクリングをすることも可能です。トイレやベンチも完備されていますのでピクニック気分でお訪してみたいはいかがでしょうか！

仲間とCAMP & BBQ !!



おすすめスポット↓
海辺の森キャンプ場（新潟市北区）
こちらも新潟医療福祉大学のそばにあるキャンプ場です。調理に必要な道具や鉄板の貸出、薪や木炭の販売も行っているので手軽にBBQが可能。テントやシュラフの貸出もあるので宿泊も楽チンです。シャワーも完備されていて夏でも安心して利用することが出来るので、新たに出会った仲間や仲の良い友達と、思い出の1つにしてみたいはいかがでしょうか！

SPORT HOLIDAY

スポーツ・レジャーが身近にある休日の過ごし方

皆さんはお気に入りの休日の過ごし方はありますか？「ある！」という方も「どうしたら良いかわからない…」という方もスポーツ・レジャーを通した休日をお過ごし、更には充実した学生生活を目指してみたいはいかがでしょうか？大学生には高校生の時と違い、多種多様なあそびが存在しています。「ここでこれができる！」というおすすめのスポットをまとめてみましたので、ぜひこれを参考に皆さんの休日について考えるきっかけになって頂ければ幸いです！

海を眺めてランニング



おすすめスポット↓島見浜（新潟市北区）
新潟医療福祉大学のそばにある海水浴場です。日頃運動が出来ていないという方など、天気の良い日に海岸線から海を望みながらランニングしてみたいはいかがでしょうか！

楽しみ方は無限大！ フライングディスク



フライングディスクはプラスチックで出来ている円盤のディスクです。軽く投げやすい上にキャッチもしやすいので怪我の心配が少なく、運動があまり得意でないという方にもおすすめです！ちょっと運動が出来そうなスペースとディスクさえあれば手軽に出来るので、ここで紹介した行き先でやってみてはいかがでしょうか！



Are you ready to enjoy the sport ?



新潟医療福祉大学の「スポーツ(SPORT)」を心と身体を通して学び、自らの生活を豊かにしていく。「スポーツ(SPORT)」を通して得ることが出来る高揚感を、普段の生活に落とし込むプロセスこそ特別な意味を込めて私たちは提案していきます。

発行所 NUHW SPORT MEDIA
発行 年4回
nuhw.sportmedia@gmail.com

NUHW SPORT 応援 SCHEDULE

君たちが部活動を盛り上げる。

クラブ名	日程	大会名	場所
水泳部	4月7日(火)～4月12日(日)	日本選手権水泳競技大会	東京辰巳国際水泳場 (東京都)
	5月22日(金)～5月24日(日)	ジャパンオープン 2015	東京辰巳国際水泳場
	6月下旬	勝浦スイムフェスタ	勝浦市守谷海岸(千葉県)
	7月4日(土)～7月5日(日)	中部学生選手権水泳競技大会	日本ガイシアリーナ (愛知県)
	9月4日(金)～9月6日(日)	日本学生選手権水泳競技大会	古橋廣之進記念浜松市総合水泳場(静岡県)
	9月23(水)	オープンウォータースイミング ジャパンオープン 2015 館山	館山市北条海岸 (千葉県)
	11月	ワールドカップ	東京辰巳国際水泳場
男子サッカー部	4月19日(日)開催～11月	第43回北信越大学サッカーリーグ1部	北信越各地
	4月～8月	第20回新潟県サッカー選手権大会～県代表決定戦～	新潟県各地
	4月～8月	平成27年度新潟県社会人サッカーリーグ1部	新潟県各地
	4月～11月	第9回新潟県サッカースーパーリーグ	新潟県各地
	5月～6月	第39回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北信越大会	北信越各地
	8月～12月	2015インディペンデンスリーグ北信越	北信越各地
女子サッカー部	4月4日(土)開幕～9月	2015プレナスチャレンジリーグ ※EAST所属	聖籠スポーツセンター(アルビレッジ)他
	4月～9月	2015北信越女子サッカーリーグ	北信越各地
	9月	第37回全日本女子サッカー選手権北信越大会	北信越各地
	10月～11月	第24回全日本大学女子サッカー選手権北信越大会	北信越各地
男子バスケットボール部	5月4日(月)～5月6日(水)	北信越学生春季リーグ	鳥屋野総合体育館 他
	7月上旬	新潟日報杯	新潟県内
	9月下旬	新潟選手権大会	新潟県内
	10月上旬	北信越大学バスケットボール選手権大会(インカレ予選)	北信越各地
	10月下旬	北信越総合バスケットボール選手権大会	北信越各地
	11月下旬	全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)	東京都
	1月上旬	全日本総合バスケットボール選手権大会	東京都
女子バスケットボール部	5月4日(月)～5月6日(水)	北信越学生春季リーグ	鳥屋野総合体育館 他
	7月上旬	新潟日報杯	新潟県内
	9月下旬	新潟選手権大会	新潟県内
	10月上旬	北信越大学バスケットボール選手権大会(インカレ予選)	北信越各地
	10月下旬	北信越総合バスケットボール選手権大会	北信越各地
	11月下旬	全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)	東京都
	1月上旬	全日本総合バスケットボール選手権大会	東京都
硬式野球部	4月4日(土)開幕～5月	関甲新学生野球連盟春季2部リーグ	大原運動公園野球場(南魚沼市) 他
	6月	関甲新学生野球連盟新人戦	未定
	10月	関甲新学生野球連盟秋季2部リーグ	大原運動公園野球場(南魚沼市) 他

クラブ名	日程	大会名	場所
陸上競技部	5月2日(土)	第14回 NUHW 競技会	本学陸上競技グラウンド
	5月16日(土)～5月17日(日)	北信越インカレ	西武緑地公園陸上競技場(石川県)
	6月12日(金)～6月14日(日)	日本学生陸上個人選手権大会	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川県)
	6月13日(土)	第15回 NUHW 競技会	本学陸上競技グラウンド
	6月26日(金)～6月28日(日)	日本陸上競技選手権大会(インカレ)	デンカビッグスワンスタジアム
	7月4日(土)	全日本大学駅伝北信越予選会	デンカビッグスワンスタジアム
	9月11日(金)～9月13日(日)	日本学生陸上競技選手権大会	ヤンマースタジアム長居(大阪府)
	9月26日(土)	第16回 NUHW 競技会	本学陸上競技グラウンド
	10月23日(金)～10月25日(日)	日本陸上競技選手権リレー	日産スタジアム(神奈川県)
	10月24日(土)～10月25日(日)	北信越学生陸上競技選手権大会	新潟市陸上競技場
	10月25日(日)	全日本大学女子駅伝対抗選手権大会	仙台市
	10月31日(土)～11月1日(日)	第17回 NUHW 競技会	本学陸上競技グラウンド
	5月	パフォーマンス発表会	本学ダンススタジオ
	8月	パフォーマンス発表会	本学ダンススタジオ
	8月5日(水)～8月8日(土)	全日本高校・大学ダンスフェスティバル	神戸文化ホール(兵庫県)
	10月11日(日)～10月12日(月)	伍桃祭(学園祭)	本学ダンススタジオ
	3月	新潟医療福祉大学ダンス部公演	新潟市北区文化会館
ダンス部	4月10日(金)～4月11日(土)	春季信越大学リーグ戦	新潟県上越市
	6月25日(木)～6月28日(日)	東日本大学バレーボール選手権(東日本インカレ)	岩手県花巻市
	7月18日(土)～7月20日(月)	中部日本総合選手権	長野県長野市
	8月22日(土)～8月23日(日)	ミ二国体	富山県
	9月19日(土)～9月20日(日)	秋季信越大学リーグ戦	長野県上田市
	11月30日(月)～12月5日(土)	全日本大学バレーボール選手権(全日本インカレ)	愛知県
	4月25日(土)	アートミックスジャパン	白山公園空中庭園(新潟市)
	9月中旬	新潟総踊り	万代・古町(新潟市)
	10月11日(日)～10月12日(月)	伍桃祭(学園祭)	本学
	5月5日(火)開幕～6月	県春季リーグ	新潟県内
女子バレーボール部	8月15日(土)～8月20日(木)	全日本大学軟式野球選手権大会	未定
	8月30日(日)開幕～9月	県秋季リーグ	新潟県内
	11月16日(月)～11月20日(金)	東日本大学軟式野球選手権大会	未定
	5月15日(金)～5月17日(日)	春季北信越リーグ戦	北陸電力体育館(福井県)
	8月10日(月)～8月13日(木)	東日本学生選手権大会	いしかわ総合スポーツセンター(石川県)
よきこい部	8月28日(金)～8月30日(日)	秋季北信越リーグ戦	小松市総合体育館(石川県)
	11月6日(金)～11月11日(水)	全日本学生選手権大会	北海道函館市民体育館 他(北海道)
	5月15日(金)～5月17日(日)	春季北信越リーグ戦	北陸電力体育館(福井県)
	8月10日(月)～8月13日(木)	東日本学生選手権大会	いしかわ総合スポーツセンター(石川県)
軟式野球部	8月28日(金)～8月30日(日)	秋季北信越リーグ戦	小松市総合体育館(石川県)
	11月6日(金)～11月11日(水)	全日本学生選手権大会	北海道函館市民体育館 他(北海道)
	5月15日(金)～5月17日(日)	春季北信越リーグ戦	北陸電力体育館(福井県)
ハンドボール部	8月10日(月)～8月13日(木)	東日本学生選手権大会	いしかわ総合スポーツセンター(石川県)
	8月28日(金)～8月30日(日)	秋季北信越リーグ戦	小松市総合体育館(石川県)
	11月6日(金)～11月11日(水)	全日本学生選手権大会	北海道函館市民体育館 他(北海道)

※上記の試合内容は変更の可能性があります。詳細については各大会主催団体にお問い合わせください。また、NUHW SPORT MEDIA(ブログ)でも随時大会スケジュールを更新致します。

共に夢を追いかけてよう!